第67号　（昭和39年8月18日第3種郵便物認可）（昭和40年2月5日国鉄東局特別扱承認新聞紙第407号）　（毎週火曜日発行）　日本のこえ　万国の労働者団結せよ！　1965年10月26日（火曜日）

日本のこえ

中央機関紙

発行所　日本共産党（日本のこえ）
東京都新宿区四谷2の1
電話（353）8664・8665・8666・8667
振替・東京40194番

大阪事務所　大阪市天王寺区堀越町119の1高橋ビル内（国鉄天王寺駅北側）
電話・大阪（771）1831～5

1部25円
1か月100円

共産主義運動の統一と党建設を

第2回全国活動者会議

労働者の中に深く

よびかけと決議採択　各地の経験を交流

日本共産党（日本のこえ）第二回全国活動者会議は十月十六、七の両日、東京でひらかれた。昨年十一月、第一回全国活動者会議がひらかれてから十か月ぶりである。この間内外情勢は大きく発展し、戦争拡大の危機に対応してさる三月、十九か国の共産党、労働者党は協議会議をひらき、意見の相違をこえてベトナム侵略戦争反対の統一行動を強化するコミュニケを発表した。全国の党組織はこの「三月コミュニケ」を支持、春闘、参議院選挙、ベトナム侵略反対などの大衆闘争に全力あげて取組み、共産主義運動の統一と発展のため奮闘した。会議はこれらの成果にたって進められ、中央指導部はじめ全国の党活動者代表約百人が参加、各地の予備討議を基礎にこんごの進むべき方向を明らかにした。二日間にわたる討議の結果、会議は別項の「よびかけ」と三つの決議を採択するとともに、指導部を代表した志賀義雄氏の結語をふくめて「活動報告」を承認し、共産主義運動の統一と党建設めざして新たに第一歩を力強くふみ出すことになった。

会議は、志賀、鈴木、中野、神山の四中央委員と松本惣一郎、田宮滋の二本部員の六氏を議長団に選出、会議運営委員に津京（本部）、戸原（東京）、山田（茨城）、石井（静岡）、八木（大阪）の五氏を選んだのち、第一日目、午前十一時から討議にはいった。

冒頭、志賀義雄氏が報告を行なったが、志賀氏は「マルクス・レーニン主義の原則と〝宣言〟〝声明〟を支持し三月会議のコミュニケを了解する限り、部分的な理論上、政治上の意見は障害にならない。われわれはいわゆる〝別党コース〟はとらない。われわれの党建設は代々木指導部によってふみにじられた党の革命的伝統と権威の回復、すべての共産主義者の結集による真の党の回復をめざすものである」と共産主義運動の統一と党建設の意義を明らかにしたのち当面の課題として①党組織を拡大し②機関紙「日本のこえ」の読者をふやすことの重要性を訴えた。

また内外情勢にふれ、日本経済はいまや恐慌状態にはいっており、政府の対策は大量くびきりが前提となっていると指摘、これと効果的にたたかうには「党の病根であるセクト主義を徹底的に一掃し、労働者階級の中にしっかりした根をおろすことが大切である」と強調した。このあと休憩にはいり、午後二時再開、社会主義革新運動議長の内藤知周氏、統一社会主義有志会の春日庄次郎氏から第二回活動者会議に寄せられたメッセージが披露された。

ついで地方組織が確立している東京、大阪、愛知、静岡、茨城、神奈川、京都、石川、和歌山、熊本、北海道などの代表が各地の活動状況をもとにして、予備討議の状況、問題点をだし、報告案の内容を深めた。

各地代表はいずれも報告案を支持し、十か月間の貴重な経験を報告した。とくに党建設については、当面する任務の重大さに比較して遅れていることがのべられ、ついで討議にうつり午後八時、第一日の日程をおわった。

第二日は午前十時開会、たたかいの中で倒れた故高原同志に黙祷をささげたのち、前日にひきつづいて当面する共産主義者の結集について活発な意見をかわした。参加者たちは日本の共産主義運動が今日のような統一を欠いた状態に陥ったのは、代々木指導部の誤ったセクト主義と分裂政策にあることを指摘し、これを改め「代々木派の良心分子をふくめ真の統一をかちとるのがわれわれの任務であって分派を形成するのは正しくない」と指摘した。また党の規律である民主集中性を尊重し、近代プロレタリアートにふさわしい党づくりが行なわれなければならないとのべられた。

午後は大衆闘争の問題について討議が集中し、各戦線分野にわたって科学的政策をもつ必要が強調された。平和闘争では地域、職場に平和組織をつくるとともに理論面でも戦闘性を発揮する重要性が指摘された。多くの代表は職場の若い労働者たちが、代々木派の影響をうけて「平和共存は労資協調と同じである」という誤った観念をいだいており、これをただすため「日本のこえ」が積極的役割をはたすべきであるとの発言があった。

労働組合運動でも代々木派の分裂政策にもとづいて各所で分解作用がおこっており、至急統一を回復すべきであるという報告が行なわれた。その他学生、婦人、中小企業、農民などの各階層のなかで党組織が十分な成果をあげておらず、至急これらの問題についても対策をたてることが強調された。

また特別重要な問題として大阪代表から衆院選挙の問題が提案され、「近く衆院選挙が予想され大阪からは志賀同志が立候補の予定であるが、この選挙はある意味でわれわれ共産主義者の運命をかけた問題であるといいうる」と発言し、党員が来たるべき衆院選に全力あげて取組むことが承認された。さらに当面の急務として機関紙問題がとりあげられ機関紙拡大と紙面の刷新に全力をあげることがきめられた。

このあと起草委員会で作成された「共産主義運動の統一へのよびかけ」と「機関紙拡大についての決議」など三つの決議が採決され二日間の日程をおわった。

荒木同志と故高原同志遺族を激励

全国活動者会議

全国活動者会議二日目、参加者たちはさる八月二十一日急死した故高原博同志の未亡人敏子さん（住所＝大阪市西淀川区姫里町一の二九二）と在獄中の荒木寿同志（静岡刑務所）へ激励の手紙と救援金をおくった。会場で集められた募金は総額一万七千五百余円。

来春闘の方針決定

春闘共闘委

春闘共闘委（総評・中立労連）では十五日、金属労働会館で全体会議をひらき、来年春闘の方針を討議し、つぎの方針（骨子）をきめた。

【基本的構え】①日本経済のヨロメキや景気の後退は独占資本と政府の責任であるから、春闘は国民生活を守る防波堤という立ち場で新年春闘に立ち上がる。そして、ことさらな不況宣伝を克服することに努力する。②大衆討議、学習活動、教宣活動を中央、地方、拠点、産別共闘の各段階で力を入れる。③職場労働者の闘争意欲を正しく資本、当局にぶつけていく指導体制をさらに強化してゆく。④合理化反対の要求を職場から掘りおこし、賃闘と結びつけて、産別統一、指導のなかで統一闘争をたかめてゆく。⑤春闘の行動を高めるためにも、物価値上げ反対を中心とする国民生活確保の闘いとの結合をはかり、ベトナム反戦、憲法擁護を中心とする平和闘争との結びつきを強調してゆく。

よびかけと決議

共産主義運動の統一へのよびかけ

同志のみなさん！

社会主義革新運動、統一社会主義同盟、社会主義統一有志会の、同志のみなさん！

日本共産党（代々木）指導部の誤った指導のもとに今日なお党と革命の未来を信じて苦闘している同志のみなさん！

すべての共産主義者、革命的労働者のみなさん！

日本共産党（日本のこえ）第二回全国活動者会議は、みなさんに、心からよびかけます。

緊迫した内外情勢のもとに、すみやかに結集、統一して労働者階級と人民大衆の闘争の先頭に立上がろうではないか、と。

戦争の危険、民主主義の危機、生活の不安が、日本の労働者階級と人民大衆をますますおびやかしています。わが国の労働者階級と人民大衆は、ベトナム戦争、日韓条約、恐慌、合理化、高物価、重税など、つのる重圧にたいして反戦、平和、生活擁護の闘争に立上がっており、アメリカ帝国主義と日本帝国主義にたいする統一戦線の基盤は、未曽有のひろがりをみせております。

この切実な大衆闘争の利益は、それ自体、すべての共産主義者の結集、組織的統一、それによる正確で具体的な指導を求めております。

同志のみなさん！

すべての共産主義者の結集、統一の国際的原則は、すでに大綱的にモスクワ宣言と声明の思想、政治、組織路線として確立されており、その正しさは闘争の検証のなかで日々に証明されております。

したがって今日、この正しい国際路線から逸脱し、しかも自らの綱領、規約さえふみにじっている日本共産党代々木指導部の分裂主義的活動という一定の困難が存在するとはいえ、すべての共産主義者が、この正しい原則についての大綱的一致が得られるならば、結集、統一を妨げる障害は基本的にはなにひとつありません。

国際共産主義運動の正しい共通の路線に立ち、日本の労働者と人民大衆の革命運動を責任をもって勝利にみちびくために、直ちに結集と組織的統一をすすめるための具体的活動に、ともにとりかかろうではありませんか。

労働者階級に基礎をおく創意と活力にみちた民主集中の党を建設するために、ともに力をあわせようではありませんか。

当面の統一行動をさらにつよめ、統一のための正式な話合いの場をつくろうではありませんか。

みなさん！新しい決意をもって、日本の共産主義運動、国際共産主義運動の統一をめざして積極的に貢献しようではありませんか。

一九六五年十月十七日

日本共産党（日本のこえ）第二回全国活動者会議

機関紙「日本のこえ」拡大にかんする決議

機関紙「日本のこえ」は、日本共産党の革命的伝統を継承し、マルクス・レーニン主義とプロレタリア国際主義の立場にたって日本の労働者階級の統一、日本共産党の再建、国際共産主義運動の統一をめざすわれわれの活動の先頭に立ってきた。当面するきびしい内外情勢の中で大衆闘争の発展、共産主義者の統一と団結をかちとるという任務を遂行するうえで、宣伝者、扇動者、組織者としての全国的政治新聞「日本のこえ」が果たすべき役割は決定的に重要である。しかしわれわれの機関紙活動の現状を直視するとき、「日本のこえ」の果すべき役割に比べて、その組織活動は著るしく立ち遅れているといわねばならない。

この活動を強めることなくして共産主義者の結集をおし進めることも、大衆のなかにわれわれに対する信頼と権威をうちたてることもできないであろう。

したがってわれわれは機関紙の拡大活動に計画的、自主的に取り組もう。機関紙の配布、集金活動を根本的に改善しよう。大衆はわれわれのこの活動を通じて、われわれのめざしているものを感知し、われわれに対する信頼を強めるだろう。

われわれは、機関紙の拡大を代々木派のように、すべての大衆闘争や日常活動に優先させ、成績主義で党員の活動をしばりつける官僚主義の道具にしようとするものではけっしてない。

われわれは、われわれ自身の自発的な自覚的決意と創意的な活動にもとづいて機関紙の拡大に取りくみたい。機関紙の拡大を通じてわれわれが大衆と深く結びつければ、結びつくほど、逆に機関紙の内容改善、すなわち職場、地域、大衆の生々した闘いと経験、意見をより良く反映する努力は成果を生むだろう。われわれは全国の職場、地域で通信員制度を確立し、「日本のこえ」に積極的に通信を送ろう。この拡大と内容改善の両方から、大衆と生々とした結びつきを強め、深めることは、情勢が鋭さをましている現在、とくに急がれねばならない。

われわれは、日本共産党（日本のこえ）第二回全国活動者会議の名において機関紙の拡大活動に、計画的に、自主的に取りくむことを、全国の同志ならびに支持者のみなさんによびかけるものである。

一九六五年十月十七日

衆議院議員選挙にかんする決議

情勢は緊迫し、事態はいよいよ重大である。きたるべき衆議院選挙は、日本の進路にとって決定的な位置づけをもっている。この選挙でわれわれ日本共産党（日本のこえ）が進出することは、日本国民がもとめる政治転換をかちとる闘争のカギとなっている。とくに大阪において志賀義雄同志の当選をかちとる意義は、あらゆる意味でわが国の平和、民主主義、真の統一戦線の勝利にかかわる。われわれは、大阪における選挙状況を検討し、志賀同志の当選が容易ならぬものであることを知り、きたるべき選挙に全力をあげることを決意した。

全党の同志ならびに全国の労働者、すべての進歩と平和を愛するみなさん、きたるべき選挙戦のなかで、日本共産党（日本のこえ）が勝利するよう協力を心からうったえる。

一九六五年十月十七日

日本共産党（日本のこえ）第二回全国活動者会議